

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見



中村桂子の「ちょっと一言」

戦争反対

投稿日：2018.08.31 ニックネーム：ミッキー

(長文でごめんなさい)

私は母や祖父から戦時中の苦しい生活を聞きましたが、自身の体験はありません。しかし、最近見たある戦争番組について、「ふつうのおんなの子」のご本を読んで考えるようになった思いを書こうと思います。

多くの人が知るその番組は、「日本のいちばん長い日」昭和20年8月15日前夜の話で、無条件降伏を受け入れて国の平和を求める首相と、徹底抗戦、国民総玉砕を主張する軍部の対立です。軍の上層部は兵卒（人）を人間機械・道具とみなし、中層部は己が保身のために軍令を遂行する。挙句の果てには、兵卒に玉砕を強要し、特攻隊までも考え出して若い命を失わせる。恐ろしい状況です。これは男性社会組織が暴走した結果の悲しい結末です。しかし、その状況下でポツダム宣言受諾への流れを作った当時の首相は、軍閥や暴徒の圧力に屈せず、戦争を終わらせる為に、いろんな工夫と努力を尽くした功労者だったことを初めて知りました。その後、彼は権力を求めることもなく身を引いたそうです。“おんなの子”だったのかなと思います。

ふと、この不幸な男性偏重社会の構図は、現代の企業にも垣間見られることに気がつきました。軍閥が“お国のため”という価値観を振りかざしたのと同じように、企業の上層部が“お金のため”という価値観を振り回し、中間管理職がその価値観を一般社員に無理強いする。挙げ句の果てに過労死や自殺者をうむ。弱者や若者が犠牲になる悲しい現実です。いつの時代も、多様性のない単一の価値観しか許さない組織は危険です。でも、その価値観から抜け出すのは容易なことではないと思います。私は企業に勤めていた時に過労で倒れたことがあります。これから社会に出る二人の息子が、戦争の危惧なく穏やかな暮らしができる世の中になって欲しいと願っています。

追伸：「ふつうのおんなの子」のご本は、賢く暮らす為の知恵に溢れていると思います。私は、ジューディの考え方や、モモの時間感覚、虫愛づる姫君の“眼”を、日常の中で意識しようと思います。

お返事

投稿日：2018.09.05 名前：中村桂子館長

日常思っていることを書きましたので、こんなこと世間に通じるかしらという不安がありました。それをきちんと受け止めて下さって本当にありがとうございます。

私の思いは、メールでお送り下さったこととピタリと重なります。先回の東京オリンピックの頃は、「オリンピックは参加することに意味がある」というのが決まり文句でした。国の力、人種、性別など無関係に努力をした人たちが参加してフェアプレイを楽しむ場として考えられた祭典でした。今や国の威信をかけてメダルの数を競う場になり、その陰では選手を競争の道具のように見る空気ができていることが最近の不幸事続出で見えてきています。もう少し一人一人が生きることを大切にするとしたら楽しかろうと思うのです。

季刊「生命誌」



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

目は良いのですか

投稿日：2018.08.27 ニックネーム：ラクダの 마사

生命誌97にオプシンの変異と機能変化の記事がありました
ヒトの中波長のオプシン（緑）は長波長（赤）遺伝子が重複しさらに変異を重ねてできたものとされています
そのためかどうか分かりませんがこのオプシンの吸収極大は短波長の青と長波長赤オプシンの中間よりは長波長側にあります
この結果ヒトの視覚は緑から赤にかけての分解力が高くなります
この遺伝子が代々受け継がれてきた理由として果物などの色付きを認識することに役立ったという説があります
一方ヒトが集団生活を行う中で顔色を伺うために重要だったのでは無いかとの考え方もあります
この分野の研究結果（素人ですので解説書）があれば紹介いただきたく思っています

お返事

投稿日：2018.09.05 名前：表現を通して生きものを考えるセクター・川名

季刊「生命誌」の記事をお読みいただきありがとうございます。ご質問の件ですが、霊長類の3色型色覚が、顔色変化の検出に適しているかを実験的に調べた平松千尋博士（九州大学）らの成果が今年6月に発表されています。下記のページで解説が読めます。

●霊長類の色覚進化の道筋を探って - 3色型色覚は顔色を見分けるのに適している？

<https://academist-cf.com/journal/?p=5127>



中村桂子の「ちょっと一言」

この手に蝶が舞い降りた！

投稿日：2018.08.17 ニックネーム：ミッキー

暑さのせい、庭のミニトマトやシシトウが例年よりも二週間以上も早く実が終わってしまいました。秋の準備で、シシトウの枝を片付けている時、突然蝶が私の手の甲にヒラリと舞い降りました！見ると前足でトントンと叩いています。数秒もした後、飛び立ちましたがすぐに戻ってきて、また私の手をトントン。オレンジ色の翅に黒の斑点がある、モンシロチョウぐらいの大きさです。細い綺麗な脚でした。研究館のセミナーでアゲハを観察させてもらっていたので、すぐにそれが産卵の準備行動だとわかりました。その蝶にとっても親しみが湧きました。自分も小さな生きものなんだと感ぜられる貴重な体験。それは小さな幸せ。夏の朝の不思議な出来事でした。

追伸：

「ふつうのおんなの子」のちから を読み始めました。中村館長のお考えがよく分かる待望の本だと思います。トップバッターの「あしながおじさん」のジューディが言う、日常の生活の中で「小さな幸せをたくさん積み上げる」生き方。いいなと思いました。

お返事

投稿日：2018.08.23 名前：中村桂子館長

お庭仕事の合間にチョウとの対話をなさる生活、すてきですね。そのような生活を基盤にする社会になって欲しいのですが、ビルの中でコンピュータと向き合う方が多いのでしょう。とくにこれからをつくる若い人たちのことを考えてしまいます。

ふつうのおんなの子。お読み下さっているとのこと本当にありがとうございます。



その他

館長 ご返答ありがとうございました

投稿日：2018.08.10 ニックネーム：たっくん

国立療養所長島愛生園で精神科医として働き 多くの著作を残された神谷美恵子さんについては今年5月に放送されたETV 100分で名著「生きがいについて」に

て初めて詳しく知りました。本は借りて途中までしか読めていませんので全編を読んでみます。らい菌に感染したとしてもすべての人が発症するわけではないが 発症し病が進行すると命を奪うのではなく人間を奇形の生きものとしてしまう病 ハンセン病。今は化学療法が療養所にいられた患者さんの初期の化学療法による副作用で病が悪化という犠牲を経て後遺症なく全治することができるようになりました。ハンセン病 らいは病気ではなく天罰や生まれる前の悪行の報いと言われた時代が長く続き畏れられてきた歴史を持ちます。他の生きものなら異形になって成長するのは当たり前だけど人間は異形に対して特別な感情を持ちますね。人間という生きものを考える時 生命誌の一番 最後のところに人間はいると思います。生きものの命の見えない世界を感じることでできるはずですからハンセン病 らいを発症された方々が強制隔離により受けた人生被害が繰り返されることのないよう見えない命のつながりの世界を学んで行きたいと思っています。神谷さんのテレビ放送最後の日の前日に大阪市の湾岸に昭和9年まで存在していた療養所 外島保養院の最後の入所者の男性が103歳で療養所にて亡くなりました。日本のハンセン病療養所は療養者がいなくなることで消える運命にあります。日本におけるハンセン病の歴史を後世に正しく伝えることは難しいけれど是非ともやらなくてはと思っています。

お返事

投稿日：2018.08.13 名前：中村桂子館長

とてもいねいに考えていらっしゃいますね。私は生命誌（Biohistory）を考える前にライフステージという考え方を提案しました。人間の一生を考えるもので、誰もが生れ、育ち、老い、死ぬというあたりまえのことを基本にしています。一生の間に誰もが赤ちゃんだったり、病人になったり、老人になったり。弱者がいるのではなく誰もが弱者になるということです。つまり、弱者のない社会はありません。ここからは特定の病気を特別のように捉えて差別をするという考え方は出ないはずと思っています。なんだか差別をしたがる人が目立っているようで気になりますね。

その他

ハンセン病

投稿日：2018.08.08 ニックネーム：たっくん

病よりも病が引き起こす病変により社会 周囲の人々より家族までもが長く偏見と差別に苦しめられ命を絶つ人も多数あったハンセン病。らい菌が発見され感染症とわかってから強制隔離が世界各地で行われました。戦後、世界ではらい菌の感染力が弱い感染症であることがわかってから隔離政策を止める決議が行われました。しかし日本はそのことを知りながら隔離を止めませんでした。らい菌は人間の肌に近い温度の時だけ活動すると聞きました。生命誌研究の現場で長く 人類の病として記録が残るらい ハンセン病について何か調べたり研究されたことあればお教えてください。

お返事

投稿日：2018.08.09 名前：中村桂子館長

生命誌研究館では、医学の研究をしておりませんので、ハンセン病についてとくにお伝えできるようなものを持っていませんことお許し下さい。個人的には神谷美恵子さんという心から尊敬している方が、長島愛生園でのお仕事の中で考えられたことをお書きになった書物から多くを学びました。その体験から生れた「生きがいについて」は素晴らしい本です。お求めのことは違いかもかもしれませんが。

中村桂子の「ちょっと一言」

「ふつうのおんなの子」のちから

投稿日：2018.08.02 ニックネーム：チロリン

楽しみにしていた「ふつうのおんなの子」ネットで予約しておいたので早くに入手できました、どの本も中学生の頃夢中になって読んだものばかりでとても懐かしかったです。

なかでも感銘を受けたのが暮らしの手帳に掲載された「絵にかいたお菓子」です、学童疎開をした他の友人からもお菓や歯磨き粉まで食べた話を聞きました、中島京子さんが直木賞をとった「ちいさいお家」にも似たような場面が出てきます。

終戦から七十年の余が過ぎ今食料は豊富になりまだ食べられる物もどんどん処分されていて、ファミレスでは子供の残した食べ物もみな捨てられている現

状、これでいいのでしょうか。

お返事

投稿日：2018.08.08 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。私たちの世代の共有体験はお腹が空いた話ですね。生活の一番の基本は「きちんと食べる」ということだと思います。今は豊か過ぎて却って「きちんと食べる」ができなくなっているのでしょうか。人間、いつも悩みがありますね。

[▲ ページの先頭へ](#)

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.